



トラディショナル BI からモダン BI への 移行をめぐる 6 つの誤解

紛れもない事実

デジタルトランスフォーメーションにより膨大な量の情報が生み出されるようになったのは、紛れもない事実です。今ではデータはいつでもどこにでもあり、増加のスピードは衰えるところを知りません。データ量のこの増加に伴い、いま誰もが求めているのが、新しい情報にアクセスして利用し、日々の意思決定に役立てるとともにビジネス上の好奇心を満たせるようになることです。そして現在、幅広く利用でき安全でガバナンスの行き届いた、データのアクセスと分析を行うための環境は、モダン BI によって導入のハードルが低くなりました。今日の分析プラットフォームでは、組織がデータからさらに価値を引き出せるようになるだけでなく、従来より多くの人々がデータを視覚的に探索しインサイトを共有できるようにもなっています。

トラディショナル BI は、主に「既知の未知」を明らかにするために利用されてきました。ユーザーはある特定の質問を行って、IT 部門の作成するレポートで答えを得ますが、さらにインサイトを得るには新しい質問で同じサイクルを繰り返します。しかしモダン BI により、あらゆるスキルレベルのユーザーが「未知の未知」を

探索できるようになりました。自分の質問に自分で答えを出せるだけでなく、当初は探してすらいなかったインパクトの大きいインサイトにたどり着くこともできます。しかもモダン分析プラットフォームは、ビジネスのアジャイル性と、IT 部門に必要なセキュリティやガバナンスとを両立させます。

モダン BI で約束される魅力的な環境にもかかわらず、組織によっては、誤解で判断を誤っているため、あるいはモダンなソリューションへの移行と導入に伴う課題に対応することを恐れて、投資をためらうところもあります。そうした組織は、潜在的なクリエイティビティを引き出し従業員の意思決定を強化するという、分析の適切なプラットフォームと戦略がもたらすメリットから身を遠ざけていることになります。

そこでこの Eブックでは、トラディショナル BI からモダン BI への移行をめぐる、よく目にする嘘と誤解を検証します。



誤解その1

トラディショナル BI はビジュアル分析と データ探索のソリューションをすでに 持っている

モダン BI への移行を始めるとき、真のアジャイルな分析を装った美しいだけのダッシュボードに釣られないようにしてください。ビジュアル分析のセルフサービスプロセスとビジュアライゼーションの単なる作成を混同すると、BI への取り組みは完全な失敗への道を進むか、あるいは少なくとも足踏み状態になる可能性があります。注意すべきなのは、製品のテクノロジーをユーザーに使わせ続けるためだけの「モダン」な機能を提供しているベンダーです。検討しているベンダーは、ビジュアル分析によるお客様の成功に投資しているのでしょうか、それとも市場シェアを維持しようとしているだけでしょうか？ それぞれのソリューションで謳われている言葉の裏の真意に注意を払えば、新しい変革の海に漕ぎ出すことができます。

誤解その 1

ガートナー社は、2018 年版分析およびビジネスインテリジェンスプラットフォームのマジック・クアドラントで、次のように述べています。「分析と BI のモダンなプラットフォームを特徴づける機能とは、視覚的なデータディスカバリです。2004 年前後に始まったこの変革の波により、市場と新規購入のトレンドはそれ以降、IT 部門中心の記録のシステムによるレポート作成から、ビジネス部門中心のセルフサービスによるアジャイルな分析に移りました」

真のビジュアル分析環境では、結果を示す手段としてだけでなく、データのインターフェイスとしてもビジュアライゼーションが用いられており、そのためデータを簡単に分析することができます。その一方で、トラディショナルなツールの多くは時代遅れのプロセスをそのまま維持しており、ビジュアライゼーションの作成には条件をあらかじめ設定しておく必要があるため、インサイトはエンドユーザーが閲覧者として得られるものに限定される結果に終わります。では、エンドユーザーがフォローアップの質問を思いついた場合や、分析の方向性を変える必要がある場合にはどうすればいいのでしょうか？ IT 部門に再び依頼してまた待つことになるのでしょうか？

ビジネス部門にとっての変革の価値は、最終的な結果にあるのではなく、ユーザーがデータを視覚的に探索する過程で新しいインサイトを発見できるという部分にあります。そしてモダン BI ソリューションなら、操作の結果が視覚的にすぐ表示されるので、セルフサービスによる無制限のデータ探索が可能です。最初に設定された条件に縛られずにさらにインサイトを得られ、技術的な深い専門知識がなくても質問の繰り返しや方向性を変えた分析を行うことができます。

「ユーザーに懐中電灯を渡すと、ユーザーは見えたことがなかった暗い部屋の隅が見えるようになるということです」

- Southwest Airlines 社データサイエンスセンタービジネスコンサルタント、Tom Laney 氏

[36 部門で新たなインサイトを得られるようにした Southwest Airlines 社の事例を読む >](#)

Tableau のミッションは、お客様がデータを見て理解できるように支援することです。Tableau はさまざまな手段を用いて、視覚的なセルフサービス分析、データディスカバリ、データ探索を実現しています。

- 特許取得済みの視覚的クエリ言語である VizQL が、ドラッグ & ドロップ操作を瞬時にクエリやビジュアライゼーションに変換し、順を追った結果を視覚的にすぐ表示します。「作成」モードと「表示」モードを切り替える必要はありません。
- ユーザーが操作しているデータに基づいて最適なビジュアライゼーションのタイプを提案する、[表示形式] という強力な機能を持っています。最終的な形式をあらかじめ決めておく必要はありません。質問の答えを得るのに使えそうなデータを選択し、提案されたチャートタイプを試してみるだけです。
- 緯度も経度も使わずに、国、州・都道府県、市区町村というような単位でデータを表示するなどのマッピング機能が組み込まれています。Tableau では地理的フィールドが自動的に認識されるほか、空間ファイルや線形ジオメトリ、二重軸マップなどがサポートされています。
- 傾向線、分布バンド、クラスタリングなどの統計分析や高度な分析も、ドラッグ & ドロップ操作でシンプルに行えます。
- 日付の階層により、年から四半期、月、日にすぐ切り替えることができるほか、カスタムのドリルダウンパスの定義も簡単です。Tableau は、さまざまな日付形式を自動的に認識しサポートします。
- メタデータ管理も同様にシンプルで視覚的に行えます。わずか数回のクリックでクロスデータベース結合をを実行できるほか、セット、グループ、階層の作成、または列、行、値 (外れ値など) の除外が可能です。分析の途中でも行うことができ、分析をはじめからやり直す必要はありません。
- 認証済みデータソース、よく使われているデータソース、アクセスや利用が多いパブリッシュされたコンテンツなどを示すスマートリコメンデーション機能により、インサイトが得やすくなります。

* ガートナーは、ガートナー・リサーチの発行物に掲載された特定のベンダー、製品またはサービスを推奨するものではありません。また、最高のレーティングまたはその他の評価を得たベンダーのみを選択するように助言するものではありません。ガートナー・リサーチの発行物は、ガートナー・リサーチの見解を表したものであり、事実を表現したものではありません。ガートナーは、明示または黙示を問わず、本リサーチの商品性や特定目的への適合性を含め、一切の保証を行うものではありません。

An illustration of a cemetery scene. In the foreground, there are four tombstones of various shapes and sizes, all rendered in a pixelated, mosaic-like style. The tombstones are scattered across a dark, textured ground. In the background, several trees with thin, vertical trunks and sparse, dark foliage stand against a dark, textured sky. The overall color palette is dark and muted, with shades of brown, grey, and black.

誤解その2

モダン BI はトラディショナル BI プラットフォームと同じ方法で評価できる

モダン BI プラットフォームの導入は、過去から解放されることを意味します。分析に対するパワフルでモダンなアプローチには、それに合った評価基準が必要です。トラディショナル BI システムで役に立っていた要素でも、モダンなプラットフォームでは成功を妨げるようになる可能性は十分にあります。旧来のプロセスが組織の悩みの種になるような状況は避けましょう。過去の機能チェックリストは尊重しながら、未来に歩みを進める時がやって来ました。過去を捨て去る未来ではなく、変革を遂げる未来です。

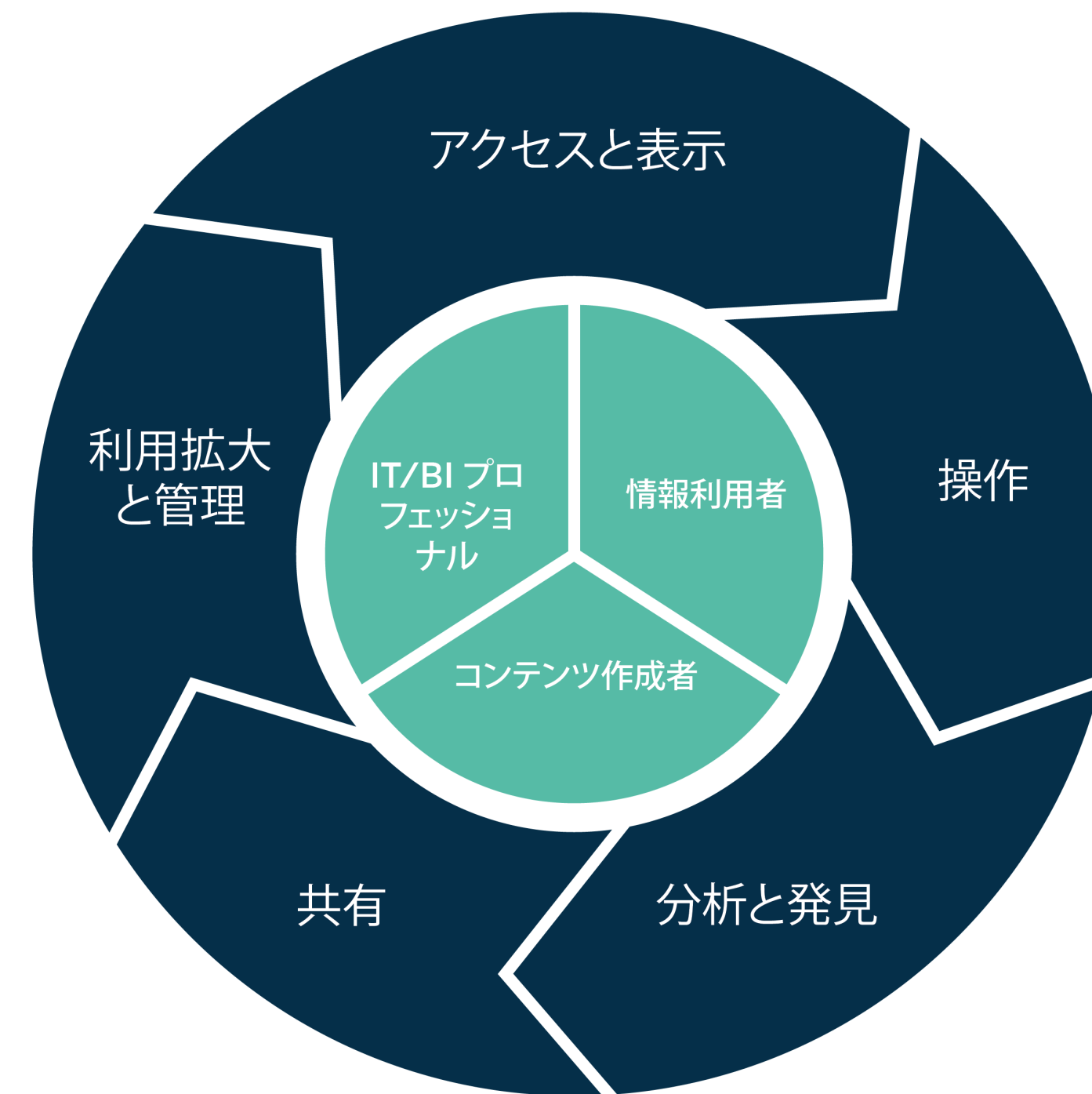
誤解その 2

1 つ目の誤解では、モダン BI の最大の価値は最終的な目的地ではなく、ユーザーがそこにたどり着くまでの道のりにあることを明らかにしました。そして、インサイトに至る道のりと同じように重要なのが、モダン分析プラットフォームを選定するまでの道のりです。変革の可能性が、データの視覚的な操作によって得られる最終的な結果だけではなく、その操作の経験によっても大きく左右される以上、作成できる最終的なビジュアライゼーションのみに基づいたモダンなソリューションの評価は理に適いません。

このように考えてみましょう。飛行機と自動車のどちらでも国の反対側に行くことはできますが、体験も過程も大きく異なります。では、車を選ぶ場合と航空便を予約する場合で同じ基準を使うでしょうか？ 旅行に持っていくバッグ、途中で予定する食事やアクティビティは同じでしょうか？ つまり、インサイトを得る方法が大きく異なるため、トラディショナルな分析機能のすべてがモダンなプラットフォームでも価値を持つわけではないのです。

モダン分析環境に対する組織の投資が確実に成功に結びつくようにするには、IT 部門とビジネス部門が協力し合って、組織が成功するうえでモダン BI がどのように役立つかを理解する必要があります。これは、役割や責任、モダン分析ワークフローのプロセスとあわせて、モダン分析テクノロジーの分析能力と使いやすさの適切なレベルも明確に理解することを意味します。

モダン分析ワークフロー



モダン BI プラットフォームの選定で考慮すべき重要な基準を一部ご紹介します。

- **統合から利用までのスムーズな流れ**

- ユーザーは製品やモジュールを切り替える必要があり、切り替えなければフローが妨げられるか?
- ユーザーがデータから答えを引き出すプロセスの中で、IT 部門はどのような役割を持っているか?

- **柔軟な導入オプション**

- アーキテクチャやデータ戦略を制限または左右するプラットフォームか?
- 必要に応じて簡単にスケールアップやスケールアウトが可能か?

- **迅速な大規模導入**

- プラットフォームのインストール、構成、管理の方法はわかりやすいか?
- 分析機能はシンプルに操作でき、専門知識のないユーザーも含めた全ユーザーのニーズを十分に満たすほど強力か?

- **効果的なユーザーイネーブルメント**

- プラットフォームに関して、どのようなトレーニングやヘルプ、コミュニティリソースを利用できるか?
- ベンダーには問題の解決、ユーザーとの関わり方、ユーザーの能力アップに関してどのような評判があるか?

- **わかりやすい価格体系とパッケージ**

- 透明で柔軟性があり、スケーラブルなモデルか?
- ライセンスオプションでは、価格に見合った機能と価値が提供されているか?

[上のものをはじめとした重要なポイントを詳しく解説する評価ガイドを読む >](#)

誤解その3

モダン BI の移行コストは正当化できない

モダン分析ソリューションを導入するということは、成功するためにそれまでのすべてを捨て去って、一から始めなければならないという意味ではありません。目に入るコストに躊躇することはあるかもしれませんが、慎重な検討と計画によって大きな価値を得られ、コストを削減できる可能性もあります。データへの好奇心と情熱があれば、時間の大幅な節約や、効率アップとコスト削減に役立つ新しいインサイトなど、数々の大きなメリットにつなげることができます。

誤解その 3

データ戦略に予算や時間、リソースを注ぎ込んできたのであれば、その投資の方向転換を考えるとだけで心配と不安を感じるのも当然のことです。幸いなことに、モダン BI はデータ戦略を支えるためにすでに行われたテクノロジーへの投資を活用できるため、移行に大きなコストはかかりません。また、戦略的タイミングで移行することにより、コストを最小限に抑えながら、トレーニングやサポートの役立つリソースで市場投入と導入までの時間をスピードアップすることができるため、組織はモダン BI の大きなメリットを短期間で得られるようになります。

TCO

TCO (総所有コスト) は、単にソフトウェアライセンスの価格だけに留まりません。インフラストラクチャや導入、メンテナンスのほか、システムの導入、サポート、拡張を担当する IT 部門のフルタイム従業員にかかる、複数年のコストも考慮する必要があります。モダン分析ソリューションを最大限に活用するために、大量の製品や孤立したツールのライセンスを取得し接続する必要があるのなら、導入、メンテナンス、管理のコストと複雑さは増すばかりでしょう。

アナリストによれば Tableau の TCO は 29 ~ 39% 低い

<p>Tableau は低い TCO と高いビジネス価値が特徴であり、現在のほとんどの製品でかかる時間の 20% で BI ソリューションを構築することができます。</p> <p>出典: International Institute of IT Economics 社によるモダン BI 導入調査 (2017 年)</p>	<p>「分析と BI のプラットフォームでユーザー 1 人当たりの 3 年間の所有コストを見ると、モダン BI スペシャリストが最も低くなっており、IT 部門によるサポートのコストが低いことがその大きな要因です」</p> <p>出典: ガートナー社による調査分析: 分析および BI プラットフォームの所有コスト (2017 年)</p>
--	---

[レポートを詳しく読む >](#)

メンテナンスと移行のタイミング

ほかにも、モダン BI への移行にかかるコストを削減できる可能性がある方法として、トラディショナルなプラットフォームのメンテナンス契約更新時期に合わせた移行が挙げられます。最適なタイミングは、使用しているトラディショナルなプラットフォームや、データのパイプラインと環境の複雑さに応じ、組織によって異なります。作業の範囲を設定する必要があると同時に、新しいソリューションを検証し、重なる期間を最適化してコストを最小限に抑えるために、適切なトレーニングやテストを考慮に入れながらスケジュールを立てる必要もあります。

組織の中には、メンテナンス契約を更新してからそれほど時間が経っていなくても、セルフサービス分析からすぐに得られるメリットだけで十分に移行の価値があると考えるところもあります。概念実証を行うと、時間とコストの削減や、効率とコラボレーションの向上の可能性がわかるかもしれません。概念実証ではさらに、トラディショナルなソリューションを廃止するまでの、同時利用期間の延長にかかるコストを正当化できる、新しいインサイトを得られる可能性もあります。あるいは、特定の用途でモダナイズすることが理に適わないとわかった場合は、適切なユーザーと利用場面に合わせて各ソリューションをスケーリングするだけで、コストを最適化することができます。

市場投入と導入までの時間

IT 部門はこれまで、導入したソリューションが、ビジネス部門から強い要望があったものであっても、結局は導入が停止するか導入率が減少するという経験を何度も重ねてきました。モダン BI による成功の大半はエンゲージメントによって左右されるため、投資が継続的に行われる場合のみ持続的な価値が保証されます。エンゲージメントは共同責任ですが、クリエイティビティと支援により大幅な促進を図ることができます。モダン BI プラットフォームへの移行にかかるコストとその価値を比較するときは、市場投入と導入までの時間をスピードアップできる、カスタマーサクセスのリソース (トレーニング、ヘルプドキュメント、フォーラム、ユーザーコミュニティなど) を考慮に入れることを忘れないでください。



誤解その4

テクノロジーの適切なアップグレードさえ行えばモダン BI のメリットを得られる

適切なモダン BI テクノロジーは全社規模の変革に欠かせませんが、変革のプロセスを成功させるための単なる一要因に過ぎません。晴れた夜の満月と同じように目につきますが、他にも重要な要素はあります。データドリブンな意思決定が行えるようになるには、組織の骨組み、あるいは「DNA」と呼べるものそのもので、人々の中のデータを求める欲求を呼び起こすための変化が必要です。それはつまり、IT 部門とビジネス部門が明確に定義された役割と新しいプロセスの下で連携して、従業員が自分の直感と新しいインサイトを両立できるようにすることです。難しいことのように聞こえるかもしれませんが、しっかりした戦略があれば、変革管理の取り組みに対する抵抗は起こらないでしょう。

誤解その 4

モダン BI の導入には、確実に成功するための周到な戦略が必要です。最新テクノロジーの導入のほかにも、IT 部門とビジネス部門は連携しながら、分析における役割と責任、プロセスとパイプライン、成功を測定する方法で起こる変化を乗り越えていく必要があります。幸いなことに、モダン BI は使いやすさと情報豊富なインサイトという特長を持っているため、ビジネスユーザーは多くの場合、関与に慎重になるのではなくむしろ喜んで関わろうとします。

「Tableau を使い始めた時点で私たちが考えていたのは、ダッシュボードとレポートの作成だけでした。まさか Tableau が組織の DNA を根本から変えるだろうなどとは、誰も予想していませんでした」

- Lenovo 社グローバルビジネスインテリジェンス部門ディレクター、Ashish Braganza 氏

[レポート作成の効率を 95% 向上させた Lenovo 社の事例を読む >](#)

先ほど使った、飛行機と自動車の例えを思い出してください。モダン BI プラットフォームを導入しながらも、組織内や行動上の変化に対処しないままで良い結果を期待するという状況は、従業員に飛行機を与えておきながら、従業員が道路で飛行機を走らせているのを見てなぜなのかと首を傾げるようなものです。

モダンなソリューションを導入する場合は次の枠組みを検討すると、従業員がその新しいプラットフォームの「適切な使い方」の学習で支援を受けていると感じるようになります。

<p>計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析環境に対するビジョン (主なマイルストーンを含む) を設定する クイックウィンを実現して ROI を実証する使用事例を特定する 新規ユーザーのオンボーディングのスケジュールを立てる 導入を支えるための適切なハードウェアとソフトウェアのニーズを見極める 	<p>定義</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理、アジャイル性、コンテンツの新しさを共存させるために必要なデータガバナンスのプロセスを検討する SLA とサポートプロセスを決定し設定する 分析のパイプラインにおける明確な役割と責任により連携を促進する (スキルの向上に合わせた責任の委譲に関する計画を含む)
<p>イネーブルメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザーがスキルを生かし向上させるための明確な道筋を示す ユーザーがそれぞれの役割でセルフサービス型のデータ利用を行えるようにする ビジネス価値を持つ関連コンテンツをユーザーが作成し保守できるようにする 付加的なリソースやアクティビティでデータドリブンなコミュニティを育成する 	<p>測定</p> <ul style="list-style-type: none"> ユーザーエンゲージメントと利用状況を測定するための指標を設定する コンテンツの利用で実際の状況と予想した状況を追跡する サーバーの利用状況とパフォーマンスをモニタリングする 新しいデータの要望と需要の増加に備える



誤解その5

モダン BI はガバナンスがないセルフサービスによる混乱を引き起こす

データガバナンスは人によって異なる意味を持つことがありますが、その重要性は広く理解されています。セキュリティ、ガバナンス、リスク緩和は IT 部門の主となる業務であり、そのため IT 部門は必然的に、組織のデータを重要な資産として全力を尽くして守ってきました。一方でモダン BI は誰とでもデータを共有できることが特長ですが、それはもちろん、ユーザーが IT 部門から強引にデータを奪うことになるという意味ではありません。それどころか、モダンなガバナンスのフレームワークにより、ビジネスユーザーはデータとコンテンツのセキュリティ、利用、新しさに対して共同責任を持つことができるようになります。

誤解その 5

組織のデータ完全性を守る IT 部門は、制限のないデータアクセスと認証されていないコンテンツにより混乱や不整合のリスクが生じる、管理されていない「無法地帯」になることを恐れています。しかし、IT 部門が主導するトップダウン型の BI から、モダンなセルフサービス型のイネーブルメントモデルへ移行しても、ガバナンスが一夜にして劇的に変わることはありません。

当初は、データアクセス、メタデータとコンテンツの管理、サイト管理で、IT 部門が従来の役割を果たし続けるかもしれません。しかし時とともに、モダン分析環境の導入規模を拡大できるようにするために、IT 部門は適切なトレーニングを受けたビジネスユーザーに責任を委譲していくべきです。

「IT 部門では考えつかないようなものを、ビジネス部門が作れるようにする必要があります。IT 担当者には、とても作れないものです」

- AmeriPride 社最高情報責任者、Steven John 氏

[ガバナンス、コラボレーション、カスタマーサクセスを向上させた AmeriPride 社の事例を読む >](#)

念頭に置かなければならない重要な点は、データの種類が変われば必要なガバナンスのレベルも変わるということです。何よりも、ガバナンスの行き届いた大規模なセルフサービス分析環境は継続的で繰り返しのある過程であり、それ自体が目的地なのではないと考えることが大切です。変化し続ける要件に適応するとともに、エンゲージメントの拡大に合わせてユーザーに情報を提供し、権限を与え、会社のポリシーを遵守させ続けることができれば、構築したガバナンスモデルは成功するでしょう。

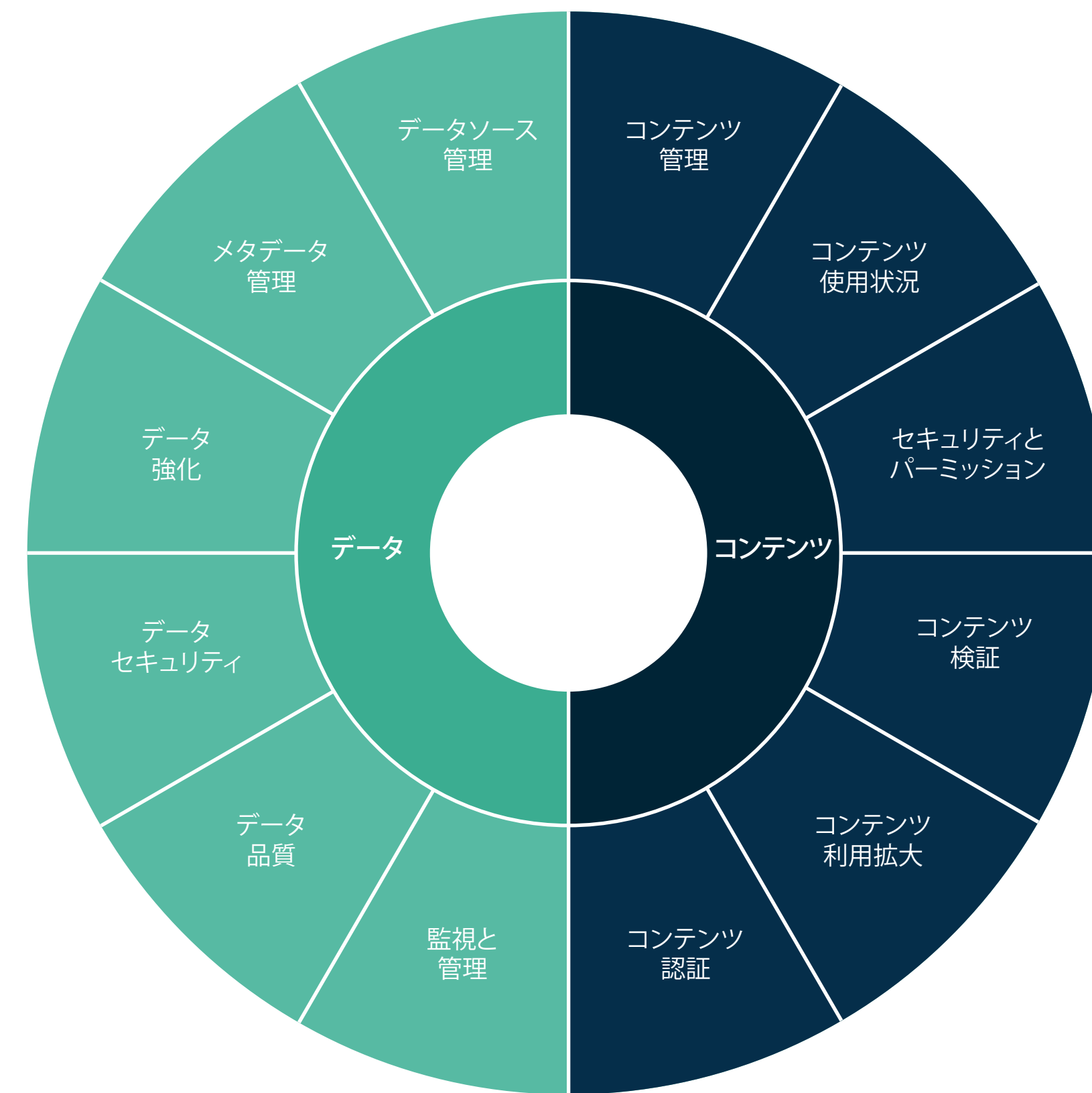


Tableau は、データガバナンスとコンテンツガバナンスで構成されたガバナンスフレームワークを提供します

導入規模の拡大に合わせてビジネス部門に権限を与える方法の例をいくつかご紹介します。

- 適切なユーザーがガバナンスポリシーを遵守しながら、自身のデータソースをパブリッシュし認証するスキルを身につけられるようにするための、明確なガイドラインを作成します。
- データベースとコンテンツに対して、ユーザーの役割に基づいた自動パーミッション設定を行うことにより、ユーザーにとって最も重要な信頼できるデータにアクセスできるようにします。また、Kerberos、SAML、SSL、Active Directory、クライアント証明書など、すでに導入している認証規格を活用します。
- 特定のビジネス要件への適合や特定のワークフローへの対応が必要な場合は、Tableau の自動化、埋め込み、拡張を行います。たとえば、ログイン、新しいユーザーアカウントの作成、サブスクリプションの作成などを行うスクリプトを書くことができます。
- サンドボックス (実験、テスト) プロジェクトと、本番環境 (ライブ、検証、利用拡大) プロジェクトで、階層を分離した状態を保ちます。これにより、コンテンツを管理するプロジェクトリーダーやサイト管理者にとって、ネストされたコンテンツのパーミッションがシンプルになります。

プロジェクトのレベルでパーミッションを設定して、サンドボックスとライブのプロジェクトを分離



[規模に応じたセルフサービス分析の管理について詳しく読む >](#)



誤解その6

モダン BI への移行は手間がかかりすぎて無理だ

重要な日常業務を継続しながらでは、新しいソリューションの導入は簡単なことではありません。ときに組織は、プロジェクトの紆余曲折や複雑な事態の大半を切り抜けても、最終段階で大きな困難にぶつかることがあります。迷路の出口にたどり着いたときに、新しいソリューションが半分しか成功していないとわかれば非常に失望することになります。必要なのは、成功を支援する確かな戦略的枠組みを持つ経験豊かな支援者を得ることであり、それは可能なことです。

誤解その 6

新しいテクノロジーソリューションの導入を試みて、重要な期日に間に合わなかった、予算をオーバーした、ソリューションが約束する環境の実現に届かなかったなどという経験があれば、そのような事態を恐れるのも無理はありません。複雑な導入に長い時間と大きな手間をかけたあげくに、完全に失敗するかもしれないという懸念は、どうしようもない外因があるにしても抱いて当然です。移行を進めているときに現れる妨害、障害物、袋小路は常に予測が簡単だとは限らず、社内リソースを重要な業務から長い間引き離すことも現実的ではありません。

しかし、安心してください。移行を単独で行う必要はありません。業界には BI のエキスパートがひしめいており、Tableau でも、移行を支援する適切なノウハウと枠組みを持った、コンサルタントやシステムインテグレーターなどの戦略的なパートナーを探すことをお勧めしています。このパートナーには、トラディショナル BI からお客様が選ぶモダン分析プラットフォームへの、移行や切り替えを行った経験が必要です。また、お客様の細かいニーズをしっかりと汲み取り、モダン BI でそのニーズに応える方法を深く理解している必要もあります。さらに、新しいソリューション導入の適切なスケジュールの素案作りを支援する、確かな枠組みと能力も持っていなければなりません。

トラディショナル BI からモダン BI への移行を成功させるための枠組み例をご紹介します。

- **第 1 段階**では、計画策定、スコーピング、作成するレポートとニーズの一覧作成のほか、移行に必要な戦略を策定するために財務モデルを詳細に調べます。また、部門横断的な運営委員会、組織内の役割と責任 (ライセンスで設定された役割にユーザーを割り当てる作業も含む)、早い段階でユーザーを成功させるためのデータとガバナンスの戦略で鍵となるポイントを、それぞれ確立または評価する必要もあります。

- **第 2 段階**は、インパクトが最も大きいモダン BI のコンテンツを移行するという手間のかかる部分です。旧来のレポートは多くの場合、モダン BI の機能が広く利用できるようになる前に定義されたユーザー要件に基づいて設計されているため、この段階は、レポートの利用者と協力して最高クラスの分析機能を利用できるようにする絶好の機会です。重要な業務に Tableau で対応するのに合わせて、引き続きレポート作成やガバナンス、保守、モニタリングなどのプロセスを固め、ワークブックとデータソースのプロトタイピングを開始し、ユーザーのトレーニングを始めてもいいでしょう。

- **最終段階**では、トラディショナルなシステムとモダンなシステムを同時に利用しながら検証を行います。ユーザーが新しいモダンなソリューションに習熟するにつれ、ソリューションがレポート作成のニーズを満たしているだけでなく、そのセルフサービス型のビジュアル分析機能によりデータから新しいインサイトを引き出し、ビジネス部門がメリットを得ているかをユーザーに検証してもらう必要があります。理想的には、メンテナンス契約更新時期になった時点で、トラディショナルなプラットフォームを廃止するかスケールダウンします。

もちろんこのプロセスは、利用中のトラディショナル BI システム、ビジネスロジックの複雑さ、データグラビティの中心がある場所、そして導入規模に応じて、組織により多少異なるでしょう。結局のところ、成功に結びつく枠組みで何より大切なのはタイミングと調整です。

[Tableau を利用したモダン BI への移行について詳しく読む >](#)

TABLEAU を使う理由

「Tableau を利用したおかげでプロセスを大幅に加速できました。通常のレポート作成の大半を自動化し標準化できるようになっています。今では、掘り下げてもっと具体的な分析を実行する時間が 30% ほど増えたのではないのでしょうか。こういった点で Tableau は、急増するデータを評価しこの業界の変化に対応するのに役立っています」

- Lufthansa 社戦略 BI イニシアチブ部門責任者、Christian Novosel 氏

[データソースを集約しセルフサービス BI の規模を拡大した Lufthansa 社の事例を読む >](#)

Tableau プラットフォームは、柔軟なデータアクセス機能や強力なデータ準備機能など、組織全体で重要なデータを利用できるようにするさまざまなレベルの幅広い分析機能を持っています。確かなセキュリティとガバナンスの機能もあり、データを適切に保護しながら、ユーザーが意思決定に必要な的確で信頼できるコンテンツを確実に見つけられるようにします。

Tableau は導入先も柔軟に選べます。Linux または Windows、オンプレミス、パブリッククラウド、完全ホスティング型の SaaS のほか、Web ポータルやアプリケーションへの埋め込みにも対応しています。データの形、サイズ、タイプにかかわらず、場所がオンプレミスでもクラウドアプリケーションでも、あるいはフラットファイルでも接続して、ライブまたはインメモリでデータを分析することが可能です。また、幅広い API による拡張性も備えています。柔軟性と選択肢をご提供すること、それが Tableau の基本方針です。

ソリューションの評価はソフトウェアだけに留まりません。ソリューションの導入、イネーブルメント、拡張、サポートも検討して、普及とエンゲージメントを確保する必要があります。Tableau を差別化し、市場投入までの時間をスピードアップして、持続的なエンゲージメントを生み出す最も重要なアセットとして 1 つ挙げられるのは、Tableau のコミュニティです。幸いにも、世界中の熱意にあふれたユーザーの方々にご参加いただいております。その規模はコミュニティフォーラムのアクティブな参加者が 150,000 人以上、そして世界各地の 500 ユーザーグループの 165,000 人に及びます。そのためお客様からは、「コミュニティがあるから失敗するはずがない」という声を頻繁にいただきます。

Tableau の中心には常に、お客様がデータを見て理解できるように支援するというミッションがあります。そのためモダン BI と分析の市場にのみ注力しており、研究開発に対して業界トップクラスの投資を行っています。Tableau は、お客様のデータ戦略とビジネスニーズが発展し拡大するのに合わせて、継続的な成功を後押しするデータスキルと社内コミュニティを構築できるように支援します。

「Tableau ユーザーが 12,000 人に増加し、経営陣も新たにセルフサービス分析に舵を切ったことから、当社は方向性を転換しました。ユーザーを一層支援し育成する環境に変わりたいと考えていたのですが、ユーザーも私たちと共に前に進んでくれました」

- Charles Schwab 社 Tableau Server 管理者、Gessica Briggs-Sullivan 氏

[Tableau の導入規模を拡大しセンターオブエクセレンスを育成した Charles Schwab 社の事例を読む >](#)

Tableau について

Tableau は、規模に応じた超高速セルフサービス分析を通じてお客様がデータを見て理解できるように支援する、全てがそろった使いやすいエンタープライズ対応のビジュアル BI プラットフォームです。オンプレミスでもクラウドでも、また Windows でも Linux でも、Tableau はテクノロジーへの既存の投資を生かし、お客様のデータ環境の変化と成長に合わせた規模の拡大が可能です。データと人の力を Tableau で引き出しましょう。

[その他のリソース](#)

[企業向け Tableau: IT の概要](#)

[規模に応じたセルフサービス分析の管理](#)

[モダン BI と分析の評価ガイド](#)

[IT や BI のプロフェッショナルが Tableau を選ぶ理由](#)

[モダン BI を使う理由](#)

